

小規模多機能型居宅介護いろいろ庵こぶし サービス評価
【2022 年度】

2022年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	宮城県高齢者生活協同組合	代表者	理事長 伊藤 恵仁	法人・事業所の特徴	元お鮎屋さんを改装した室内は、壁紙の和紙がほんのりとした温かみと明るさを醸し出し、笑顔こぼれる空間を作っています。そのなかで「暮らしたい場所でのいきいきとした生活を支え、おひとりおひとりの時間を大切にしたい介護をしたい」という思いで2017年に開所し6年目を迎えます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 いろり庵こぶし	管理者	伊藤 さよ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	人	1人	1人	1人	5人	2人	1人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadの増設 ・記録は、その方に関するものはiPadに、連絡事項はノートに記載する。また、記録には出来事その他、「気持ち・考え」を入れる。ノートには提案や質問、賛否や回答なども記載する。 ・ライフサポートは前年度と同じ方を担当するが、二人一組で対応する。 ・スタッフ会議を有効に活用し情報交換する。 ・成年後見人制度の学習会を包括支援センターに協力いただきスタッフ会議で実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのチェック項目に対し各自の評価がなされていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携した項目において取り組みが出来ていない結果であった。コロナ禍で仕方がないことでもあるが、今後、事業所が地域とどうかかわっていくかであるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネを中心にメールなども利用し、家族等とのコミュニケーションを密にする。 ・少人数でのミーティングの実施。記録の充実と周知 ・ライフサポートの充実と目標の実現に向けた具体的なスケジュールの設置。 ・スキルアップにむけた資格取得や研修計画の策定 ・スタッフ会議で利用者一人を掘り下げた生活状況や変化について話し合う。 ・成年後見制度の有資格職員による研修、身体拘束と虐待に関する研修の継続実施。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進委員の方々に利用者様や職員の様子を見て頂く機会を作る。 ・行事の案内を出し、感染状況をみながら少人数で参加していただく。 ・室内環境の改善について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度一度も訪問していないので、いずれもわかりません。 ・訪問できなかったので取り組めませんでした。 		<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進委員の方々に利用者様や職員の様子を見て頂く機会を作る。 ・行事の案内を出し、新型コロナ感染状況をみながら5人以下で参加していただく

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
C. 事業所と地域のかかわり	<p>地域の相談機関のひとつとして利用いただけるように。</p> <ul style="list-style-type: none"> こぶしだよりの発行(年3回)様子がわかるように集合写真を機会あるごとに撮っていく。小規模多機能型居宅介護事業内容も掲載し制度について繰り返しお知らせしていく。 感染防止に努めながら、町内会の班長会議や地域の行事、サロンに参加する。 連合町内会に回覧の相談をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の所在している町内では認識されています。コロナ禍にも関わらず、地域行事に参加いただいている姿勢はよいと思います。 町内事情により、班長会での紹介が出来ませんでした。 地域の行事に参加したことが地域の人にわかるようなものがあればいいのではないか。 地域包括支援センターの方は色々な行事に参加しており、認知度が高い。 コロナで活動が制限されたなかでの評価は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の民生委員とコネクションは必要と思われる。 利用者の地域での過ごし方をみるためには民生委員とのかかわりは必要。 こぶしを見に来る機会を作り見に来てもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> こぶしだよりの発行(年3回)小多機の説明を必ず入れる 掲示板を設置しお便りや企画の案内をする。 WEB会議などに職員も参加できるように体制を作る おたよりの回覧について連合会に相談する。 地域の方々も参加できるような講演やスマホ教室などのイベントの開催 相談会の実施 挨拶しながら近隣の店舗にパンフレットを置いていただく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止に努めながら利用者様の希望に沿う外出の機会を作る。 地域の行事(夏祭り、灯籠作り、こいのぼり鑑賞など)イベントに参加し、地域との交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との関りが大事であるという認識を持たれていると思われます。 地域行事に参加していただきました。 「2」の会議は運営推進会議がまさに当てはまると思うし、立ち話で地域のかたと話をしたことも当てはまるのではないか。 「3」について社協のサロンにつれていくことも当てはまるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源とは何か？を明確にし、本人がそれにどう関わられるかを協議していけばいいと思います。 エコマップを作製し地域資源を確認するのもいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の防止に努めながら利用者さんの希望に沿う外出の機会を作る。(サロンの参加など) 地域の行事(夏祭り、灯籠作り、こいのぼり鑑賞など)イベントに参加し、地域との交流を図る。 利用さんの地域の民生委員やお友達などを把握する。軒下マップの見直しをする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 写真を使ったわかりやすい報告をする。 9月の運営推進会議では認知症についての学習会を企画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状を認識できる説明がなされていると思います。 すべてにおいて努力されていると思います。 前回の改善計画について「写真を使って報告」は「はい」、「認知症の学習会」は「いいえ」とだぶり回答 	<ul style="list-style-type: none"> 運営上何に困っているか？課題は何か？を明確にいただければと思います。雑談会にはならないように。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真も取り入れわかりやすい報告をする。

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況をみながら少人数で運営推進委委員の方に避難訓練に参加いただく。 ・地域の防災訓練には利用者さんと職員一緒に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であり、事業所の防災訓練には参加できなかった。町内の防災訓練には安全旗の提出があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に事業所は地域にとってどのような役割を担えるのかを知っておきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの感染状況をみながら運営推進委委員の方に避難訓練に参加いただく。 ・地域の防災訓練には利用者さんと職員と一緒に参加する。 ・こぶしの防災計画を伝える。